

やすらぎ



医療法人社団 芙蓉会

ふよう病院

芙蓉ミオ・ファミリア町田

グループホームあおぞら

デイサービスふれあいルーム

千葉芙蓉病院

きゃらの樹ケアセンター



芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

4月上旬に宮城県・気仙沼に訪問する機会があり、地元の経営者の計らいで、工場見学や地元の方々との意見交換等、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。中でもリアス・アーク美術館を訪問し、東日本大震災後の写真、記録等を拝見しながら受けた「被災物」の説明は印象的でした。一般的には「ガレキ」と呼ばれる物でも、被災者にとっては、それらは災害によって壊された大切な財産・大切な記憶。だからこそ敢えて「被災物」という表現を使うのだと。真の意味での復興支援とは、このような細部の表現にまで心配りをすべき奥の深いものであると、改めて感じた出来事でした。

さて、先日、年度初めの挨拶を兼ねて院内研修を開催し、「療養病床はどう変わる」をテーマに今後の当院の取り組みについて、全職員に説明を致しました。ご存知のとおり、介護療養病床については昨年末に経過措置や新しい転換先が発表され、当院も、今後の介護給付費分科会等の指針を受けて、最終判断をしていく局面を迎えます。今までは慢性期病院の役割が看取りであったのが、在宅復帰も視野に入れなければならない時代に変化している事実。地域ケアシ



ステムの浸透により、法人の運営にも利用者ニーズ等外部環境を認識した方向を模索する必要性。これら今後の法人の在り方を説明しながらも、自身、時の移り変わりを感じずにはられませんでした。

研修会の最後には、今年目標として掲げている「三方良しの精神」について今一度確認し、新しい取り組みに対しては、「成功の反対は、何もしない事」をキャッチフレーズに、「取り組みにチャレンジしていく心意気」を共有したいというメッセージを伝えました。

芙蓉会が追い求める理想郷の実現に向けて、介護療養病床の転換を芙蓉会の挑戦の始まりと位置づけ、今年度も取り組む所存です。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

思い遣りの心

千葉芙蓉病院院長 大津 裕司



先日「何年か振りに日本に来てみると、街はきれいに良くなったが、何だか人々に思い遣りの心、人情味が薄くなったような感じがする。」と元東南アジアからの留学生の言を目にしたのです。

私も同じような思いを車の運転時に感ずることがあります。以前、坂道では登る車が優先であったのです。しかし、現在のようにオートマ車全盛で、マニュアル車の運転の経験のない人々にとっては坂道優先則など知る由もないのは当然かもしれないと思われます。しかし、老オートマ車運転者にとっては、重力に任せて速度を落とさずに、狭い坂道を下ってくる車に遭遇したならば、相手を何と思い遣りのない運転者だと思ふのであります。

斯くの如く、自動車の技術の進歩の前後には、思い遣りの心の発露に相違が出てくるのは当然だと思ふのであります。

思えば嘗ての自動車、「木炭車」と今の自動車と比較すればその優劣はまさに月とスッポンであります。往時の自動車、「木炭車」とは昭和 20 年前後の一時期に走っていた車で、賽の目に切った木を燃やした木ガスを燃料としており、馬力も弱く、坂道では巧みなギヤチェンジにより馬力を引き出して登坂するのです。その上さらに、ギヤの同調性が良くなかったのですから、ギヤチェンジにはダブルクラッチを用いなければ

ならず、運転者は細心の注意を払わなければならなかったのです。斯かる車との坂道での出会を経験した者にとっては、坂道優先則が当然のこととして染み付いていることは理解されると思ひます。

坂道での運転における思い遣りの相違のような事象は世代間にまたがり、この他に幾多あると思ひます。私たちはこのような世代間に横たわる思い遣いを克服してゆかねばならないと思ひます。それには互いに話し合い意思の疎通を密にすることが必要でしょうし、また、広く見聞を広めて認識の世代間相違を狭める努力がお互いに必要かと思ひます。

一方、巷では 2020 年オリンピックに向け、「おもてなしの日本」を標語に掲げております。そうすると外国人との間の相違を克服することが必要でしょう。おもてなしをするには何より思い遣りの心を養うことが必要でしょう。今一度、医療従事者としての思い遣りとは、と想いを到してみませんか。

自身が入院したいと思える病院をめざして

看護部長 松嶋 彩子



平成 28 年 7 月に、前看護部長より引き継ぎふよう病院の看護部長に就任いたしました松嶋彩子と申します。

私共ふよう病院は、一般病院と異なり、ある一定の治療を終えられ病状が回復できないままご自身の老化と付き合いつつ療養をしていく患者様のための病院です。ゆっくりと回復できる状況にある方、一生持病として長く治療をしていく方、リハビリや食事療法を基本として、日々穏やかに過ごされることを目標としていらっしゃる方、様々です。

日本は超高齢化社会、多死社会といわれ、これまでに体験したことのない高齢社会を迎えています。病院の在り方や治療の在り方、またどう生きてどう死ぬかを多方面の権威ある先生方があらゆる角度から発信しております。これからは自分の考えで決められたり、思いを現実のものとする時代になります。

ふよう病院の看護部は目標として、「自分の大切な両親を入院させたい、または自分自身が入院したいと思えるような看護、介護をしよう」

と明示しています。誰にとっても自分の親はかけがえのない存在です。親を大切に思う気持ちを患者様に対比させ、常に心を持ったケアができるよう心掛けています。一人ひとりの思いを大切に、時には楽しみを感じ、時には痛みを緩和するケアを目指し、できることなら数時間でも家に帰りたい…そんな思いが実現できるよう、可能な限りお手伝いをさせていただきたいと考えております。看護師、介護士が患者様やご家族の気持ちになって働くことのできる病院を目指します。ご家族様からのご要望、ご意見をお待ちしております。

院内職員研修会報告「個人情報保護法」
29年3月開催 発表者 川原経営 新井結花氏

＜テーマ＞

個人情報保護法について

＜内容＞

- ①個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）
～医療・介護関係事業所における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン～とは？
- ②医療・介護関係事業所における個人情報の適切な取り扱いに関するQ&A事例集より抜粋して解説



院内職員研修会報告

「療養病床の在り方と高齢者の医療」「利用層の変化と病棟転換について」
29年4月開催 発表者 院長、理事長

＜内容＞

院長より

1. 療養病床の在り方
2. 高齢者に対する医療行為について
 - ・薬を使っても副作用が目立ち改善しなくなる特徴がある。
 - ・高齢者医療は、それ以上どのような手段を持っても意味をなさないという限界を知ることから始まる。
 - ・過度な医療や食事で患者様にかえって苦痛を与えてしまうことも少なくない中で、自然な経過を受け入れるという事も大切。
 - ・「みじめな形での延命より苦痛の少ない大往生」を選択する自由を認める。

理事長より

1. 利用者層とニーズの変化
2. ご利用者に合わせて変化が法人にも必要
3. 医療療養病床への転換とその方法

＜感想＞

入院している患者様のご状態からも、転換は必要だと思う。
今後の病院の方向性を聞き、自分も変化に対応していかななくてはいけないと思った。
医療病棟に向けて、スタッフや他の部署の職員が協力していけるよう頑張ろうと思う。
(職員感想文より抜粋)



院内職員研修会報告「安全対策：身体拘束を体験してみよう」

29年3月開催

<テーマ>

身体拘束を体験し、理解する

<内容>

入院患者様の中には、認知症やそれに似た症状のため、治療・入院生活に支障をきたす際は、やむを得ず身体拘束をさせていただくことがあります。しかし、身体拘束によって人間としての尊厳や誇りが失われ、さまざまな弊害を起こす危険もあることを医療従事者は理解していなければなりません。

<感想>

今回は、実際に拘束を体験し患者様の身になってみるにより、身体拘束を減らす足がかりになればという想いから企画しました。手足の拘束、手袋の使用、体幹ベルト等の使用を、それぞれが患者役になって行いました。実際体験した職員の感想として、「上から見下ろされている恐怖感」「体がしんどい」「威圧感を感じた」



など聞かれ、想像以上の感覚だったようです。「出来る限り拘束しないで済むようにできる方法を」と前向きに考えている職員も多くみられました。身体拘束を減らし、なおかつ安全な療養生活ができるように多職種が理解し合い、努めていきたいです。

千葉芙蓉病院・きゃらの樹ケアセンター 合同施設見学会

悪天候の中、第5回施設見学会が行われました。利用者様5名・ご家族様4名参加でした。まずは通所リハビリテーションデイルームでお茶を出ささせていただき、見学会にご参加いただいたお礼の言葉を申し上げ、各施設の紹介・各職員の紹介へと進みました。

雨のため移動を考慮し、施設見学はきゃらの樹ケアセンターのみとなりました。見学者様に各職員同行し、ゆっくり入所者様の普段の生活、

設備をご覧いただきました。

昼食は介護教室にて普段に近いメニューでお召し上がりいただきました。(ご飯・すまし汁・鱈の葱味噌焼き・南瓜の甘煮・菜の花のお浸し・甘茶ゼリー)。

お食事終了後、質疑応答・見学会に参加いただいたご感想など頂戴し、玄関までお見送りいたしました。また秋にも実施の予定です。



千葉芙蓉病院 イベント報告

ひなまつり

3月に入ってすぐ、病棟でひな祭り行事を行いました。職員がお内裏様・お雛様に扮して病室を訪問させていただきました。ベッドから離れられない患者様にはベッドに寄り添って記念写真を撮らせていただきました。にこやかな笑顔



が垣間見られ、楽しいひと時でした。

芙蓉会とその周辺はこの時期、桃や山桜、水仙など花盛りで、日々美しい景色が楽しめます。もうすぐ田植えの準備のため、田には水がはられて青々とした苗の到着を待つばかりです。



お花見

今年は寒の戻りのため、なかなか桜が満開を迎えず、また、患者様をお花見にお誘いするには晴天でなおかつ寒くない日を見つけなくてはならず、お花見の日の設定に苦労しました。でも、気温が低い日があったせいか、病院の前の桜は長い期間咲いて、皆様を楽しませてくれました。

夜にはライトアップされて夜桜も楽しみました。職員の皆さん、お気づきでしたか。設備課の職員さん、素敵な取り計らいをありがとうございました。

これからは、青もみじ、八重桜、ハナミズキが楽しめる芙蓉会です。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

ひな祭り

レク委員進行のもと、お内裏さま・お雛さま・3人官女に変装した利用者様・職員が各フロアをまわりました。各フロアでひな祭りの音楽を流しスタンバイ。主役が登場するとワ〜!!と歓声と拍手につつまれました。レク委員より“ひな祭りの由来”やお内裏さま・お雛さま・3人官女の紹介。なぜか3人官女の話の時だけは各フロアともドッと笑いが起こっていました。話の内容は…それは内緒です。最後は全員でひな祭りの歌を歌い、お開きとなりました。引き続き3時のおやつは“甘酒ムース”。口に含むとフワッと酒粕の香りが味わえる一品。桜の花の塩づけをアクセントに可愛く仕上げました。



通所リハビリテーション利用者様対象に刺身定食のご提供

いろいろな目標や目的を持って通所リハビリテーションをご利用いただいている皆様に、目の前で数種類の鮮魚のサクをお刺身用に包丁を入れ、お皿に盛り付けされていく様子をご覧いただきました。実演中は職員の包丁さばきからジッと目を離されることなく凝視され、盛り付

けが完了すると椅子の背に身体を預け隣席者と談笑されておられました。又、お刺身の苦手な方には天麩羅定食のご提供となりました。お食事終了後、たくさんの感想・意見など頂戴し、次回の企画に反映させていきたいと思っております。



中間浴の新設

中間浴装置が、最新型に入れ替わりました。温度の設定や湯をタンクに貯める準備などタッチパネル操作となり、また浴槽に入って頂くまでの手順も増えるなどありましたが、現在は以前と同様、安全第一。ゆっくりと会話を楽しみながら入浴していただいております。

利用者様から『浴槽がコンパクトになり身体の温まりが早くなって良かったわ』と好評をいただきました。



お花見

4月の第3週（当地ではこの時期が満開でした）お花見をしに、片倉ダム近くの公園に行ってきました。3日に分けて55名の方をご案内し

ました。お天気には恵まれましたが風は冷たく、30分が限界のようでしたが、久々の外出でいい気分転換をしていただけたかと思えます。



医療法人社団芙蓉会 きゃらの樹ケアセンター



見学随時受付中

〒292-0503 千葉県君津市広岡 375-3

TEL 0439-50-7333 FAX 0439-50-7399